

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 6 日

江別市立中央中学校

1 本年度の重点目標

「気づき、考え、工夫する、主体的に自他の成長のために行動する生徒」の育成

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	年度の重点 「気づき、考え、工夫する、主体的に自他の成長のために行動する生徒」の育成	A	さまざまな場面で生徒の「自主性」「主体性」を育む学びや行動を促すことができました。次年度も学校経営方針の実現に向け、各部・係において新年度計画の立案に取り組みます。	A	A
(1) 教育課程・学習指導	(1) ①確かな学力の育成ーア 単元において、本時の評価基準が「思考・判断・表現」である場合、対話を位置づけた授業の割合。【管内:重点1取組1(2)】	B	「対話を重視した授業改革」が推進され、確実に成果があらわれています。これからは子どもの「考える力」「自分の考えを表現する力」を伸ばさせるため、引き続き授業改革を進めていきます。	A	A
	(1) ①確かな学力の育成ーイ 対話や ICT 機器の活用を通して、考えの価値交換を行い、成果をあげている。【管内:重点1取組1(3)。重点1取組2(3)】	B	「対話を重視した授業改革」に加え、授業における「ICT 機器の活用」も着実に進んでいます。ICT 機器の活用が、生徒の考えの交流や変容につながるよう、これからは活用方法を工夫していきます。	A	A
	(1) ①確かな学力の育成ーウ ICT 機器の活用を通して、他者の考えの把握や理解、自分の考えのまとめを行った授業の割合。【管内:重点1取組2(2)】	C	「ICT 機器の活用」を通じた自分の考えのまとめの取組に課題が見られます。これからは、研修等の機会を設定し、より効果のあるまとめの方法を考え、各教科での指導にいかしていきたいと考えます。	A	A

(1) 教育課程・学習指導	(1) ①確かな学力の育成ーエ 対話や ICT 機器の活用を通して、思考力・判断力・表現力等が十分に育成されている生徒の割合。【管内:重点1取組1(4)。重点1取組2(4)】	B	「対話」と「ICT 機器の活用」により、「考える力」や「自分の考えを表現する力」が育成されつつあります。これからも、さらに定着を図るよう、継続した取組を行っていきます。	A	A
	(1) ①確かな学力の育成ーオ 伸びしろ層、中間層、定着層の3層を把握し、課題意識を持たせ、対話や ICT を活用した学習指導を行い、成果をあげている。【管内:重点1取組3(1)。重点1取組3(2)。重点1取組3(3)】	B	習熟度別少人数指導や T T による指導により、生徒個々の力に応じた指導を行っています。今後も、各種調査等を活用し、生徒の実態を的確に把握し、学習指導の充実に努めていきます。	A	A
	(1) ②豊かな心の涵養 考え、議論する道徳科の授業実践、学級活動・学校行事を通して成就感や達成感を高めるなど、豊かな心の育成に成果をあげている。	B	「道徳」の授業は、教科書を使った指導を基盤として、必要に応じて、「命を守る教育」や「情報モラル教育」などの生徒が抱える問題に合わせた内容の指導を行っています。	A	A
	(1) ③健やかな体の育成 保健体育の学習や学校行事、部活動等の取組を通して運動の楽しさや体力の向上に努め、成果をあげている。	B	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、実技の結果はおおむね良好な結果であり、部活動における結果も良好です。一方、運動や保健体育の学習に消極的な生徒も少なくないことから、引き続き体力向上の取組を進めていきます。	A	A
(2) 生徒指導	(2) ①教育活動全体を通じた自己指導能力の育成 望ましい人間関係や基本的な生活習慣、規範意識の醸成を図る指導（教育相談、QU、いじめアンケート、情報モラル指導等）の充実により、生徒の自己指導能力の育成を図り、成果をあげている。	B	社会の急激な変化や多様化に対応するためには、自ら考え、判断し、行動に移す自己指導能力の育成が大切になります。そのために「自己存在感を与える」「自己決定の場を与える」「共感的な人間関係を育てる」ことに取り組んでいます。今後も継続した取組を進め、主体的な生徒を育てていきます。	A	A
	(2) ②生徒会主体のよりよい学校生活づくり 生徒会活動や特別活動を通じて、生徒が主体的に自他の学校生活をよりよいものにしようとする行動を推進し、成果をあげている。	A	生徒会活動において、生徒の意見をもとに、担当教諭の支援を受けながら、生徒が主体となった新たな取組が行われました。今後も、生徒主体で活発な生徒会活動を目指していきます。	A	A

(3) 教職員の 資質能力の 向上	(3) ①校内研究の充実 ③教科研究の推進 研修部会、研究推進委員会、教科部会が計画的・効果的に実施され、日常的な授業改革へとつながり、成果をあげている。	B	「主体的に学びに向かう力を育む学習指導と支援の充実～自らの考えを再構築できる生徒の育成」を研究主題として、校内研修を進め、「対話を重視した授業改革」が推進されています。これからも、学校全体での研修を目指し、教科部会を中心に、計画的に進めていきたいと考えます。	A	A
	(3) ②今日的な課題に関する校内研修の推進 石教研・江教研活動をはじめ、自ら主体的に自己研鑽に励み、教育の動向や新たなニーズに対応する研修に努め、成果をあげている。	A	ICT 機器の活用をはじめ、今必要とされている課題について、全体研修を実施し、教職員の資質能力の向上を図るとともに、生徒への指導につなげることができました。	A	A
(4) 特別支援教育・生徒理解	(4) ①個別の教育支援計画・指導計画に基づく適切な支援・指導 ④特別支援教育の知見を生かした指導力の向上 特別支援委員会の開催や、コーディネーターと学年部・担任と連携しながら、一人ひとりの生徒の実態に応じた支援の充実を図り、成果をあげている。	B	通常学級における特別な支援を必要とする生徒が増加しており、担任、学年部、コーディネーター、関係機関と連携しながら、個に応じた指導の充実に努めているところです。また、今年度より、本校に通級指導教室が設置され、今まで以上に生徒の困り感に応じた対応をとることができています。	A	A
	(4) ②小学校との連携と継続した取組 接続する小学校との連携等により、支援の必要な生徒や家庭環境に課題のある生徒について情報共有に努め、指導や支援に成果をあげている。	B	接続する小学校とは入学前に綿密な引継ぎを行っており、入学後も必要な情報交換を継続しており、9年間を通じた一貫した指導に引き続き努めていきます。	A	A
	(4) ③多様な学びの場を含めた学習機会の確保と学習内容の充実 SSW、SC、教育支援センター（ねくすと）との連携や登校支援室、オンライン授業等により、個々の状況に応じた学びの場の提供や支援が図られ、成果をあげている。	B	校内の登校支援教室の開室を週2回としています。また、必要に応じて教育支援センター（ねくすと）とも連携しています。不登校生徒へのオンライン学習も継続して実施しており、今後も可能な限り、個に応じた学びの場の保障に努めていきます。	A	A

(5) 家庭 地域との 連携・小中一貫教育	(5) ①地域との連携・協働の推進 ② 地域の教育環境・資源の活用 学校運営委員会（コミュニティ・スクール）や PTA、地域との連携や、SC、SSW、特別支援教育支援員、学習サポート教員、登校サポーター、教育業務支援員などの専門性のある職員とともに「チーム学校」としての協働体制の充実が図られ、成果をあげている。	B	PTA については、サポーター体制が定着し、学校花壇の整備、朝の街頭指導、年 2 回のガラス清掃を行うなど、成果がありました。また、生徒や家庭の抱える課題は複雑化しており、SC や SSW、関係機関と連携した相談体制の充実を図っているところであり、今後により強固なチーム学校体制の構築を進めていきます。	A	A
	(5) ③保護者・地域住民の理解の促進 ーア 日常からの電話連絡や教育相談、家庭訪問に加え、CS、学校 HP やメール配信、通信、懇談会、PTA 活動等の情報発信や話し合いの場により、学校経営方針や学校の取組について、保護者・地域の理解がすすみ、成果をあげている。	B	学校 HP やメール配信サービスの活用が定着し、情報発信や欠席連絡、アンケート集約等、双方向のやり取りも増加しています。これからも引き続き、教育活動の可視化を図り、保護者・地域からの理解を進めていきたいと考えます。	A	A
	(5) ③保護者・地域住民の理解の促進 ーイ 保護者・PTA や地域住民は、本校の教育活動に、学校と連携・協働して取り組んだり、主体的な企画・提案を通して、成果をあげている。【管内:重点 3 取組 2 (1)。重点 3 取組 2 (2)】	B	参観日や公開日など、保護者や地域の方々が来校する機会が増えています。今後も保護者・地域との連携・協働を大切にして、地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えます。	A	A
	(5) ④小中一貫教育の充実 授業体験や部活動体験、検定の合同実施などの各種事業に加え、各部会や教科部会の取組、スタンダードの実践等により、中学校区でめざす子ども像やサブ目標（重点目標）の実現に向けて、成果をあげている。	A	小中一貫教育の実施については、校区内の 3 校の主幹教諭が推進役となり、児童生徒の各種交流、教員間の授業参観や部会会議、サブ目標（重点目標）の改訂等、大きな成果をあげているところです。また、今年度は事務局校として、中央中学校区の中心となって取組を推進しました。	A	A
(6) 働き方 改革	(6) ①役割の自覚と組織的な業務遂行 学校経営への参画意識を持ち、自らの企画・立案・提案が承認されたり、他の業務内容にも目を配り、声をかけ合いながら高め合うなど、支持的風土の中で業務を遂行できる職場環境が図られ、成果をあげている。【管内:重点 2 取組 2 (3)。重点 2 取組 2 (4)】	B	初任段階層、中堅層、ベテラン層のバランスも良く、分掌部会、学年部会、教科部会で教職員が連携しながら業務にあたっています。今後も教職員一人一人がやりがいを持ち、生き生きと働くことのできる職場づくりに努めていきたいと考えます。	A	A

	(6) ②「江別市立学校における働き方改革推進計画」に則った取組③教職員が限られた条件の中で注力できる環境整備 学校における働き方改革について、学校閉庁日や定時退勤日等の在校等時間の縮減の取組や部活動の在り方に関する方針の履行等のほか、工夫した取組により、成果をあげている。	C	学校における働き方改革については、校務の情報化や学校閉庁日、定時退勤日の設定のほか、留守番電話の設置、メール配信サービスの導入等、取組を進めているところです。在校等時間が80時間以上を上回っている教職員は減少しているものの、45時間以上を上回る教職員の数は減少しているとはいえ、抜本的な改善には至っていません。コアチーム会議等を活用し、業務改善に向けた具体の取組を推進し、さらなる改善に努めます。	A	B
【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】 - ICTを活用した総合のSDGsについてのグループプレゼンテーション（3年）を、土曜授業で参観させていただきました。どのグループもICTの情報を上手に利用し、自分たちで問題に向かって、どのように取り組んでいくかを考え、さらに訴えるという一歩進んだ活動をしている生徒たちの姿を見て、とても生き生きとした様子を感じました。対話とICTをフル活動した良い取組だったと思います。導き方によって、生徒たちの力は無限大だと思います。 - 部活動への先生方の活動など、働き方改革において、学校の授業と切り離して考えられるようになると良いと思います。 - 学校運営、生徒への指導にご尽力いただきありがとうございます。働き方改革の部分で難儀されているようですが、過去のやり方、在り方にとらわれずに、「選択と集中」をもって改善していただきたいです。やってみないと分からない部分はあるかと思いますが、チャレンジして下さい。生徒の成長を促し、教員の働き方が改善されることを願います。 - 中央中学校だけの問題ではなく、江別市全体で考えなければならないこと、不登校支援、通級指導教室、働き方改革（部活動の地域移行）などが多く、その中で中央中学校として、できることを、また、学校から保護者と地域へ支援を求めていくことで課題解決につながると思うので、話し合いの場や学校からの情報発信が必要だと思います。 - 大人も子どももネットによる被害が後を絶たず、胸を痛めています。いじめ問題をはじめ、ネットによる誤った情報の見極めは常に学んでいかなければならないと思います。そして、コツコツ働くことの小さな幸せを感じることでできる人に育ってほしいと常に思っています。（特殊詐欺の被害者にならない、加害者にならない）。 - 働き方改革については、以前に比べると夜遅くまで残っている先生方はかなり少なくなっていると思います。子どもたちのため、学校のために色々と活動して下さっているなと思います。					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない